

ふるさとの 其の36 誇り

児童もPR

豊小学校遺跡



豊保育所地点の発掘調査風景



豊小学校屋内運動場地点の発掘調査風景

南アルプス市吉田にある豊小学校のあたりから、南アルプスインターチェンジの周辺にかけては縄文時代の終わり、人々が稲作を始めたころから平安時代にかけての数々の遺跡が密集する大遺跡群といえます。

今回は、中でも県内では珍しい小学校の名前がついた遺跡「豊小学校遺跡」を紹介します。

昭和35年、豊小学校の校舎改築の際に基礎を造るため地面を掘削したところ「地表から約1m位下、(中略)底の裏側に木葉の押紋がある土器の底部と、他に数箇所の土器片が出土した」(『豊村』1960より)とあり、またその周辺の畑でも土器片を採集できたことなどから遺跡の存在が知られ、後に「豊小学校遺跡」と名づけられています。

豊小学校遺跡はこれまでに二度の発

掘調査が行われ、主に弥生時代の終わり頃から古墳時代初期の集落の跡であることがわかっています。

初めての発掘調査〜平成14年〜

【豊保育所地点】

豊保育園(現豊保育所)の園舎改築工事に伴い、約480㎡を調査して弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡が6軒発見されました。また、旧園舎の解体工事に伴って床の下からも基礎と基礎の間から3軒の住居跡が発見され、合計9軒の住居跡が調査されました。

二度目の発掘調査〜平成18年〜

【豊小学校屋内運動場地点】

豊小学校屋内運動場(体育館)の改築工事に伴い、遺跡が壊されてしまう範囲の約710㎡を調査して弥生時代後期の住居跡2軒が発見されました。このとき当時の豊小学校6年生が発掘調査を体験しています。



豊小学校遺跡から出土した土器



土器の表面に描かれた模様



児童が作成した説明板

時を越えて語る模様

二度の調査は、沢山の住居跡を発見するような決して大規模な発掘調査とはいえませんが、1700年も前の我々の祖先の暮らしの様子が色々と見えてきます。

例えば発見された土器をよく観察すると、甕つぼや甕なめ、食物を盛るための脚のついた高坏たかきなどが見つかっています。甕は煮炊き用の鍋ですが、この時代になると火を鍋底に受けやすくして効率よく調理するために甕に台を付けたようです。高坏内側にはきれいな模様の描かれたものもあり、この模様は東海地方と交流があったことを物語っています。^{*}

世代を超えて大切に思う心

発見された土器は「南アルプス市ふるさと文化伝承館」で見学することができます。また、これら発掘調査でわかったことを多くの方々を知っていただくこと、昨年豊小学校の5年生(現6年生)が手描きで豊小学校遺跡の説明板を作成しました。市教育委員会文化財課と共同でそれぞれの地点1枚ずつ作成し、豊小学校と豊保育所の境にあるフェンスに備え付けられています。思い思いのイラストや文章で遺跡を紹介しており、世代を超えて多くの方に知っていただく取り組みがまっています。

※1 土器の模様には時代や地方で流行があるのでそれらを調べることで当時の地域間の交流や文化の流れなどがわかります。